

第 15 回尖石縄文文化賞

受賞者：瀬口眞司

尖石縄文文化賞条例にもとづく同賞選考委員会は、柳平千代一茅野市長の諮問を受け、8月31日尖石縄文考古館で開催された。今回、選考・審査の対象となったのは、個人・団体計10件である。

候補者の内訳は、30歳代から80歳代におよび、研究歴や所属機関は多彩で、「受賞の対象となる研究及び活動の業績」についても、宮坂英弑が目指した縄文時代の歴史の本質に迫るすぐれた研究と活動を示すものであった。このことは、本賞が広く学界等一般に周知された結果をよく示すものである。

こうしたすぐれた候補者を得て、選考委員会において慎重な審議を行い、第15回尖石縄文文化賞の受賞者として、瀬口眞司氏（滋賀県）を全会一致で推薦することに決定した。

同氏の研究は、「集落と資源利用」からみた社会像、文化像の復元を目指すもので、植物質食料や水産資源の利用、集落の規模や構成等を検討し、関西地方における定住集落の成立と展開を明らかにした。その手法には、さまざまな数量的分析を加えた新しい方法論を含んでおり、縄文集落研究の新機軸を展開している。このような氏の研究は、西日本における縄文文化研究の新しい地平を展望するものであり、高く評価される。

さらに、瀬口氏は関西圏を中心に、北陸や東海地方以西の研究者で構成される「近江貝塚研究会」を主宰し、1993年11月以降、毎月1回の活動を重ねてきた。この活動は、研究者相互の研究深化や後進の育成に大きく貢献している。

このことは、縄文人の行動や社会の解明に取り組み、また考古学の普及に尽力した宮坂英弑の研究・業績を顕彰する宮坂英弑記念尖石縄文文化賞の趣旨に沿うものであり、まことにふさわしい受賞者である。

2014年8月31日

宮坂英弑記念尖石縄文文化賞選考委員会

委員長 小林 達雄



第15回受賞者 瀬口眞司氏